

学生の『論語』に対する考え方について

国語教育専修・太田亨

1、授業の概観

本授業の目的は、日本と中国がいかにか長い時間をかけて交流していたのか、また両者の物の考え方・とらえ方の相違を中国の文学作品を通じて学び、国際理解を深めることができる。そのため中国の文学作品を、日中の注釈書を参照し、さらに日中の辞書を使用して読解し、作者の真意を理解するようにした。

上記の目的を達するために、学生には次に挙げる四つの到達目標を課した。

- ①注釈書の注解を正確に理解する。
- ②状況に応じて日中の辞書を使いこなせるようになる。
- ③一語、一句、一聯を丁寧に読み解き、作者の真意を表現できるようになる。
- ④中国文学に対する興味を深める。

目的及び到達目標を実現させるために、授業では教材として『論語』を扱った。『論語』は、日本において古くから親しまれた教養書である。孔子によって著された『論語』は、人間の道徳から政治に至るまで、あるべき規範が説かれている。テキストには日本中世に作られた注釈書『論語抄』を用いた。日本人が論語を読解するために苦心している様子が筆写されており、日本人の『論語』に対する姿勢が如実に表れている。テキストを通じて、当時の日本語を読解し、中国の思想を探求することになる。

作業は、各学生に孔子の言葉とそれにたいして日本人が施した注解を割り振る。割り振られた学生は、漢和辞典と国語辞書を利用して丹念に読解し、最後に日本語訳し、それらの作業をもとに資料を作成する。できあがった資料を発表の前の時間に全員に配付し、次時間までに一通り目を通し、疑問点を明らかにしておくよう指示する。発表者が発表した後、グループ毎に資料と発表について討論し、疑問点や意見を言い合い、よりよい解釈を導き出していくようにした。一人が孔子の言葉の一つから二つ担当し、結局40章の孔子の言葉を扱った。

2、学生アンケート及び結果

授業後、アンケートを行った。これから、アンケートの質問事項とその結果を示す。

まずは授業の概要について、10項目のアンケ

ートを行った。以下、その項目と結果である。回答者は18名である。この内、国際理解教育コースの学生は4名であった。以下、この4名のアンケートを中心に見ていく。②～⑦について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0名の場合は省略した。

- ①、シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった：4名 なかった：0名）
- ②、授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（大変適切だった：1名 まあまあ適切だった：3名 ふつう：0名）
- ③、授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができました：4名）
- ④、発表資料の作成・課題作成を含めて、授業外の学習をどれほどしましたか。（かなりした：4名）
- ⑤グループ毎の討論にどのように参加しましたか。（積極的に参加した：4名）
- ⑥、授業を通して、『論語』に対する理解は深まりましたか。（かなり理解できた：2名 まあまあ理解できた：2名）
- ⑦、漢文に対する興味は深まりましたか。（深まった：2名 少し深まった：2名）
- ⑧、日本人と『論語』について、あなたが考えたこと・思ったことを自由に書いてください。

・『論語』は非常に古くに伝わり、今日まで読まれています。私たちが読んだ資料は、室町時代に作られており、当時の人々も積極的に『論語』を読んでいたことが分かりました。

・孔子の言葉は現代の日本にも通じるどころがあり、びっくりしました。人間の本質が今も昔も、日本も中国も変わらないのだと思った。

・資料を作る時に、図書館に行って参考図書を見たが、『論語』に関する本がたくさんありすぎて、どれを見て良いか迷った。日本人の解釈も本によって違うことがあり、多くの人が『論語』を読解しているんだなと思った。

・日本の歴史の中で、最も読まれた漢文ではないでしょうか。

- ⑨、日本人と漢文について、あなたの思うこと（考えたこと）を教えてください。

・『論語』の考えが現代の日本人にも通じるというのは、それだけ『論語』が日本に及ぼした影響

が強いということだと思う。2年生で習ったように、日本人は漢文を学ぶことで文字を作り出し、自分たちの文化を創り出したと言うことを実感した。

・我々の見えないところに漢文の影響があるんだなと思った。

・日本人から見た漢文は、中国の人が見る漢文と違うところがあるのではないかと思った。これまで多くの人が漢文を日本語に訳してきても、解釈が違うことがあるのは、漢字の持つ意味のとらえ方が人それぞれで異なるからだと思う。

・漢文は何事も単刀直入に要件を伝えるので、日本人はその点に共感したのだと思う。

⑩、授業に対するあなたの意見・感想を自由に書いてください。

・日本人の文章の方が、漢文よりも難しいこともあり、作業が大変だった。日本語は古文でも違いがあることが分かった。

・資料のこと以外の議論をしているグループがあり、質問も全く関係ないことのあることがあって、グループによって差があった。

・当時の日本語について、文法的なことなどもっと知りたいと思った。グループで話し合いをするのが良かった。

・昔の人の字が汚いので読む作業がとても大変だった。しかし、だんだん分かってきた時や、分からなかった文字が分かった時、とてもすっきりしました。

3 アンケート結果について

①～⑦の結果より、教員の対応や授業の進行については、あまり不満は見られなかったと言える。4名が授業に取り組む姿勢は素晴らしかったと言える。『論語』については、おおむね好印象だったようである。

⑧の結果より、日本において『論語』がどれほど深く関係しているか、実感したようである。日本と中国の関係を『論語』を通じて学ぶ目的がある程度達せられたと言える。

⑨の結果より、日本人と中国人の文字に対する感覚の違いを感じ取っている点については、こちらの予想を遙かに上回る収穫であった。言葉に対する感覚、言葉の力を読みとる能力が乏しくなっている現代において、大変重要なことだと思われる。特に国際理解において、言葉に対する鋭敏性を養うことは必要不可欠である。この授業を通じて、よい経験になったのではなかろうか。

⑩の結果より、授業に対しては、みな注釈書を日中の工具書を用いて解釈し、それらを踏まえた上で論語本文を現代語訳することが大変だったと

感想を述べている。授業中資料をもとに議論するのに脱線してしまうグループがいたことに対しては、もっと教員側が注意しなければいけなかったと反省する次第である。

まとめ

『論語』は中学校・高等学校の教科書に必ず採用されているものであり、学生にとっては馴染みは深い。しかし、どれほど日本で読まれ、どれほど日本に影響を及ぼしているかを理解している学生はいない。教科書に採用されていない孔子の言葉を知り、日本人が苦心して学んでいる様相を知ることが、日本と中国の文学交流を理解する上で意義があることといえよう。4名の国際理解教育の一助になり得たのではないかと思っている。ひとまず、目的及び到達目標は何とか達成できたものと考えている。